

アンドロイドアプリの使用権限チェックに「Tao RiskFinder」 市場活性化と安全を両立させたアプリ公認体制を確立

アンドロイドアプリ情報サイト「アンドロイダー」を運営するアンドロイダー株式会社では、Webサイトに登録するアプリのセキュリティチェックに「Tao RiskFinder」を採用した。これは、アプリが使用する権限の観点からプログラムの安全性を診断できるというものだ。これによって同社は、迅速かつ綿密に安全を確認してアンドロイドアプリを登録できる体制を確立。「アンドロイダー」公認アプリは安全だというステータスを獲得するに至った。

課題

- 自社でアンドロイドアプリセキュリティチェックが必要
- アプリが使用する権限のチェック機能を持つことが必須
- アンドロイドに関するセキュリティチェックスキームを早急に確立することが必要

解決

- アプリが使用する権限の強固なチェック体制を確立
- 1年半で約7,000本、実質的にはこの10倍のアプリをチェックできる機動力
- アンドロイドに精通したセキュリティ専門家とのアライアンスで、運営を効率化

安全のために、アプリが使用する権限をどう検査するか

アンドロイダー株式会社は、Androidスマートフォンの草創期から、日本に最適化したアンドロイドアプリ情報サイト「アンドロイダー」を運営している企業だ。アンドロイドアプリのレビューが市場の活性化につながるとして取り組んできた。

しかし、Android OSベースのスマートフォンが広がるにつれ、開発者とユーザの裾野が広がり、アンドロイドアプリに関するセキュリティ事故が発生するようになる。

アンドロイダー株式会社 エヴァンジェリスト 佐藤進氏は、この状況に「アンドロイドアプリの安全・安心が脅かされている、アンドロイドアプリ市場の活性化はない」という思いを強く抱くようになる。2012年夏のことだ。そして、それまで蓄積した8,000ものアプリレビューを捨て、サイトとしての運営方針を刷新。顔の見える

開発者が作ったアンドロイドアプリを、自社でセキュリティチェックした上で紹介するWebサイトへ進化させることを決意したのだ。

では、具体的にセキュリティチェックをどうするか。ウイルスチェックはウイルスソフトで行える。問題はアプリが使用する権限のチェックだった。アンドロイドアプリのセキュリティ事故は、アプリが使用する権限の悪用や誤用で頻発していた。ここを綿密に調べる機能を持たなければ、万全なセキュリティチェックとはいえないと佐藤氏は考えた。

コンセプトを評価して「Tao RiskFinder」を抜擢

その時パートナー企業として頭に浮かんだのが、タオソフトウェアだった。アンドロイドソフトウェア専業会社で、2012年にはアンドロイドセキュリティに関する専門書籍も刊行していた。そして、Webサイトの方針転換を決断した矢先に、



アンドロイダー株式会社

ユーザと公認アプリ開発者が一緒になって情報発信するアプリ情報サイト「アンドロイダー」を運営する企業、アンドロイダー株式会社。申請されたアンドロイドアプリは、すべて開発者の身元を確認、セキュリティチェックを行った上で登録を行っている。そのため、アンドロイダー公認アプリは、ユーザが安心して利用できるだけでなく、通信事業者やスマートフォンメーカーなどの企業も信頼してその情報を活用することができる。また総務省ワークグループや「スマートフォンの利用者情報等に関する連絡協議会（SPSC）」に参加するなど業界連携によるスマートフォンアプリの健全化、利用者保護を積極的に推進している。

- 所在地／東京都渋谷区渋谷2-12-19
東建インターナショナルビル 8F
- 代表者／代表取締役 池田 武史
- サイト設立／2010年2月
- URL／ <https://androider.jp/>



アンドロイダー株式会社
エヴァンジェリスト
佐藤 進氏

アンドロイドアプリ情報サイト「アンドロイダー」とは

ユーザと公認アプリ開発者が一緒になって情報発信していくアンドロイドアプリ情報サイト。アプリレビューサイトとしてスタートしたが、2012年、全掲載アプリのセキュリティチェックを行うなど運営方針を刷新。アプリデベロッパーやユーザが安心して利用できる参加型プラットフォームとなる。スマートフォンプライバシーに関する総務省、業界団体のワーキンググループにも積極的に参画しており、こうしたアプリ情報は、多くの企業で採用が進んでいる。

<https://androider.jp/>



アンドロイドアプリの脆弱性診断Webサービス「Tao RiskFinder」がリリースされた。佐藤氏はサービス選定当時を次のように振り返る。「探していたのがアプリの使用権限の観点で脆弱性を見るもので、『Tao RiskFinder』はまさにニーズに合っていました。気に入ったのはコンセプトです。セキュリティチェックというと、潜んでいるウイルスなどを暴き出すというものが多いのですが、『Tao RiskFinder』はプログラム改善を診断の目的としています。目線がやさしいですね。チェックもきめ細かく、『チェックをかけて実状をしめた上で、こうすればもっとよいプログラムになる』といった次のアクションにつながるアドバイスを提示する点も気に入りました」

佐藤氏は迷いなく「Tao RiskFinder」の採用を決め、アンドロイダー株式会社はこのサービスのファーストユーザーになった。

「アンドロイダー公認アプリは安全」というステータスを確立

2012年10月、「アンドロイダー」は予定通りWebサイトリニューアルを果たした。

現状、同社公認ディベロッパーがアンドロイドアプリのAPKファイルを同社サーバにアップロードすると、サーバ連携により「Tao RiskFinder」でアプリが使用する権限を中心としたチェックが行われる。続いてウイルスチェッ

クへと進み、これら2つの結果と編集部の目視による判断を総合して登録の可否が決定される。

1年半で「アンドロイダー」に登録したアンドロイドアプリの数は6,759本。公認ディベロッパーは1年ごとの更新制で、アンドロイドアプリはバージョンアップごとに見直していることを考慮に入れると、軽く現在公開している本数の10倍はチェックしていることになるという。

「最後は人の目で見ているものの、『Tao RiskFinder』を利用しなければ、このスピードでこの数のアプリを登録することは不可能でした。ユーザエクスペリエンスが洗練されているので、エンジニア出身でない編集者にも手軽に使いこなせます」

安全・安心に重きを置いたアプリ確認体制を整備することによって、同社は「アンドロイダー公認アプリは安心して使える」という確固たるステータスを獲得することができた。通信事業者やスマートフォンメーカーも同社の情報には大きな信頼を寄せている。

同社は最近、新しいサービスとして、安心なアプリの一覧と公認アプリ情報を提供するサービス「アンドロイダーAPI」をスタートさせた。すでにメディアのアプリ情報提供やスマートフォンのデバイス管理(MDM)など業務用途にも活用されている。佐藤氏は「アンドロイドアプリ市場の活性化を目指して、今後もタオソフトウェアと手を携えながら進んでいきたい」と、力強く言葉を結んだ。

製品紹介



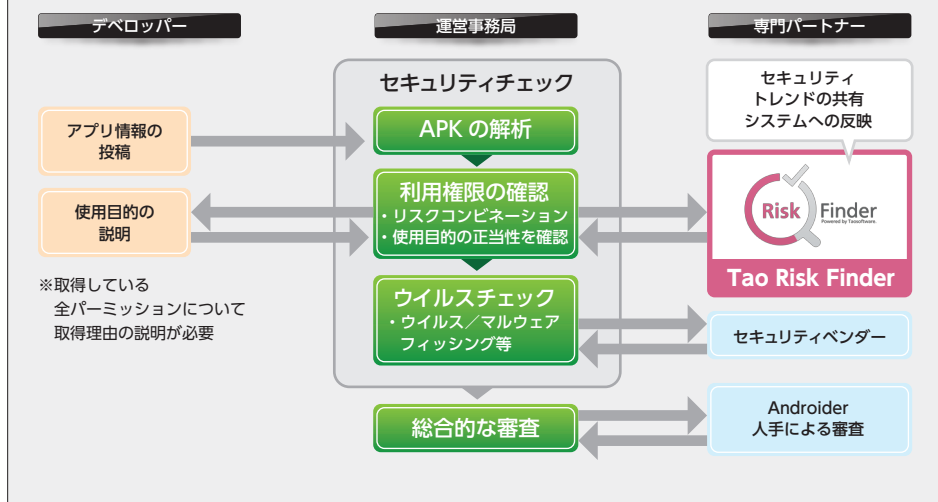
アンドロイドアプリケーションの脆弱性を診断

開発知識は不要で、アプリケーションファイルとブラウザを準備するだけで、すぐに診断することが可能です。セキュリティ事故防止に効果を発揮します。

【Tao RiskFinderの特長】

- ブラウザでファイルをアップロードするだけで、簡単に利用可能
- ソースコードは不要。アプリケーションファイルのみで診断可能です
- Webサービスなので常に最新のバージョンが使用できます
- 脆弱性に加え、マルウェアと間違えられやすい項目・品質に関する項目も検出
- 総務省の「スマートフォン プライバシー インシアティブ」に準拠

■ アンドロイドアプリ情報サイト「アンドロイダー」セキュリティチェックの流れ



お問い合わせ



タオソフトウェア株式会社
〒110-0015 東京都台東区東上野2-1-1 フリーアネックスビル8階
<http://www.taosoftware.co.jp/>

E-mail: info@taosoftware.co.jp
TEL: 03-6802-8247
FAX: 03-6802-8347